



NEO-SYMPHONIC JAZZ at 芸劇

プロデュース・指揮・編曲：挟間美帆

NEO-SYMPHONIC JAZZ at Geigeki

グラミー賞ノミネートのジャズ作曲家、 挟間美帆が贈る渾身のプログラム

昨年、世界初演された自作「ピアノ協奏曲第1番」の大成功が忘れ難い、
挟間美帆プロデュースの企画が再登場。今年のテーマはオーケストラ×ビッグバンドだ！

1920～30年代のガーシュウィン、40～50年代のバーンスタインの作品により、シンフォニック・ジャズ——簡単にいえば管弦楽で演奏されるジャズ——は人気のレパートリーとして、ホールに定着している。だが、まるで歴史はそこで途絶えてしまったかのように、60年代以降のシンフォニック・ジャズは、まずオーケストラの定期演奏会でお目にかかれない。そんな状況を変えたいと立ち上がったのが、グラミー賞へのノミネートでも大きな話題を呼んだジャズ作曲家の挟間美帆である。普段はビッグバンドを拡張したラージ・アンサンブルの領域を主戦場とする挟間だが、自身の音楽の根源がオーケストラにあることを強く自認。ガーシュウィン、バーンスタイン以降にも——今現在も——、素晴らしいシンフォニック・ジャズが書かれ続けてきたことを、絶妙なプログラミングと考え得る限り最上の演奏家を集めて証明してみせたのが昨年から始まった「NEO-SYMPHONIC JAZZ at 芸劇」なのだ。

今回のプログラムは、シンフォニック・ジャズの新しい側面にばかり焦点を当てているようにみえるかもしれないが、実は違う。第1部は有名なプロコフィエフの傑作バレエ音楽《ロメオとジュリエット》を、オーケストラの演奏する原曲と、挟間が編曲・指揮するビッグバンド版で聴き比べるという趣向だが、これには先例がある。1952年にソーター＝フィネガン楽団がプロコフィエフの《キージェ中尉》の楽曲を取り上げており、同じくロシアのバレエ音楽であるチャイコフスキーの《くるみ割り人形》は、挟間にも大きな影響を与えたデューク・エリントンやギル・エヴァンスが編曲を手掛けていたりするのだ。挟間は、こうした偉大な先人の仕事を意識しつつ、現代に更新しようとしているというわけなのである。

メインプログラムとなるのは、ジャズとクラシックの架け橋としても象徴的な地位を占める、現代ジャズの重鎮ウィントン・マルサリスが作曲した交響曲第3番——通称《スウィン

グ・シンフォニー》だ。若い頃には、バロックから近現代まで幅広いトランペット協奏曲を完璧な技巧で吹きこなし、クラシックの演奏家としても名を馳せたマルサリスだが、現在ではクラシックの音楽家が演奏する作品を多数手掛けている。サー・サイモン・ラトルが率いるベルリン・フィルと、マルサリス率いるリンカーン・センターのビッグバンドとの共演によって世界初演されたこの大作は、前述したガーシュウィンやバーンスタインだけでなく、米国のクラシックのバイオニアであるアイヴズやコーブランド、黒人作曲家の先駆であるスティルヤブライス、そしてジャズのエリントンやグッドマンの要素も取り込んだ、アメリカのシンフォニック・ジャズの歴史を総ざらいするような意欲作なのだ。ラグタイムから現代のジャズに至る変遷を、全7楽章で描くこの曲を聴かずして、シンフォニック・ジャズは語るなかれ。世界初演から10年、待望の日本初演は絶対に聴き逃がせない！

文：小室敬幸（音楽ライター）

シネマ・コンサートの若き巨匠が真価を発揮！

今回指揮を務めるニコラス・バックは、実は来日経験が豊富……というのも、最近流行りの人気映画に生演奏のオーケストラ演奏が同期されていく、いわゆる「シネマ・コンサート」で大活躍中の指揮者なのだ。彼がオーケストラを指揮すると、良い意味でクラシックらしからぬタイトなリズムが鳴り響き、ジャズファンも納得の心地

よいグルーブを生み出すことができる稀有な存在だといえるだろう。実際、昨年にはマルサリス本人と共演。マルサリスの交響曲第4番《ジャングル》の指揮も務めている、作曲家お墨付きの指揮者なのだ。彼は普段、作編曲家として、クラシックとそれ以外のジャンルを結びつける活動もしているだけに本企画にうってつけの存在だ。

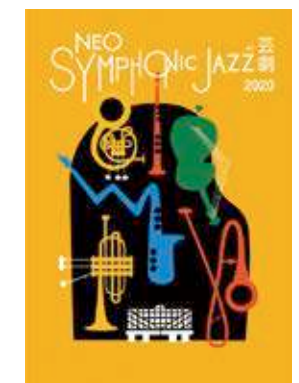


Nicholas Buc



Hazama Miho

©Hiroyuki Seo



8月16日 @ 15:00開演
コンサートホール 詳細はHPへ

[第1部] オーケストラvsビッグバンド
指揮：ニコラス・バック
演奏：東京フィルハーモニー交響楽団
指揮：挟間美帆

演奏：挟間美帆 m_big band
曲目：プロコフィエフ/
バレエ音楽『ロメオとジュリエット』から
モンタギュー家とキャピュレット家、
5組の踊り、ティボルトの死、
別れの前のロメオとジュリエット、
ジュリエットの墓の前のロメオ

[第2部] オーケストラ&ビッグバンド
指揮：ニコラス・バック
演奏：東京フィルハーモニー交響楽団
挟間美帆 m_big band
曲目：ウィントン・マルサリス/
スウィング・シンフォニー
※日本初演